

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370211

研究課題名(和文)『勅撰作者部類』校本作成による中世の人名表記原則の研究

研究課題名(英文)a bibliographical study on "Chokusen-Sakusha-Burui"

研究代表者

小川 剛生(Ogawa, Takeo)

慶應義塾大学・文学部(三田)・教授

研究者番号：30295117

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：鎌倉後期、藤原盛徳が編んだ、3000人あまりの勅撰歌人の伝記を身分階層別に収める、勅撰作者部類の伝本調査と諸本の比較、本文批判の結果、宮内庁書陵部蔵御所本(後西天皇宸筆外題)を底本として翻刻、数本で校合して、現時点で信頼の置ける本文を復原した。

さらに江戸前期に榊原忠次の手で勅撰作者部類を後補する形で成立した、続作者部類についても編者自らが修訂してかつ最善本である国立歴史民俗博物館蔵高松宮家伝来禁裏本の全文を翻刻した。以上の研究成果は2017年5月刊の著書『中世和歌史の研究 撰歌と歌人社会』に収録されて刊行、そこでは勅撰歌人索引をも併せて編纂し、利用の便宜を図った。

研究成果の概要(英文)：In the latter part of Kamakura, Morinori Fujiwara(藤原盛徳) edited a biography of more than 3,000 poets. I examined the manuscript of that biography and criticized the text. Then, I published a good manuscript which is housed in Imperial Household Archives(宮内庁書陵部) and closer to the original after the tedious task of collating with several manuscript, I restored the text that I can trust at the present moment. In addition, in the earlier part of Edo period, the successor books, which was established in the form of supplementing this with the hand of Tadatsugu Sakakibara(榊原忠次), I also introduced the full text of the authentic manuscript, owned by the National Museum of Japanese History(国立歴史民俗博物館).

The above research results were published in the book "The Study of Japanese Waka History in the Middle Ages (中世和歌史の研究)" which is published in May, 2017, where the index of all poetry was compiled together for convenience of use.

研究分野：日本文学

キーワード：勅撰和歌集 人名比定 迎陽記 補略 校本 十三代集の本文研究

1. 研究開始当初の背景

南北朝期初めに成立した『勅撰作者部類』(以下、適宜単に「作者部類」と略す)は、二条派歌人であった藤原盛徳(元盛法師)および惟宗光之が、古今集から新千載集までの勅撰歌人3000人余について、生没年・家系・官歴といった略伝を注記した上で、各集への入集歌数を示した一覧である。盛徳はまた「作者異議」等と題して、同名異人・異名同人といった伝記上しばしば問題となる事柄にも考察を加えて、別編としている。前近代では最大の文学者名鑑であり、歌人伝研究にまずは参照すべき基礎史料であると言える。とりわけ、平安期の下級貴族、鎌倉期の武家などは他に所見のない歌人も多い。

版本は管見に入らないが、活字本は明治時代に既に刊行されている。たとえば『校訂増補五十音引 勅撰作者部類』(國學院)があり、『校註国歌大系』(国民図書)、『八代集全註』(有精堂)、『和歌文学大辞典』(明治書院)などにも「附録」として収められ、広く利用された。さらに『勅撰集付新葉集作者索引』(和泉書院)も、この作者部類を基盤として編纂されている。これらはいずれも歌人の実名の頭字の五十音順に排列され、入集した集名と歌番号とが表示されている。

しかし、これまでは平安時代から南北朝時代までの歌人伝史料として利用するには、不安が払拭できなかつた。つまりこれらの活字本の底本は、後世の改編・改竄が加えられた可能性が高いにもかかわらず、本文批判が不十分であり、底本の本文やさまざまな注記の信頼性を確かめることができないからである。分量が庞大であること、かつ古写本が見出せないことが障碍となり、長くその状況は変わらなかつたが、近年になって、スコット・スピーアーズ『勅撰作者部類』の諸問題—その改編を中心に』(和歌文学研究 95号、2007)で、現行の活字本は、盛徳・光之の原態に大幅な改編の手が加えられた写本を底本にすることが指摘された。さらに注記にも尊卑分脈などによる後人の改竄が加えられていることも分かってきた。このため現在残された伝本の所在を把握し、その書誌調査と本文批判を経た上で、校本の作成が急務である。また本書の編纂の原理についても考える点が多く残されている。信頼すべき本文の提供には程遠い状態であることがいよいよ明らかになってきた。

申請者は中世歌壇史を専門とし、さまざまな文学作品や歴史史料で人名比定を行う必要から本書をよく利用していたが、とりわけ鎌倉後期の武家や僧侶については、勅撰集編纂の政治的な意義、何より当時作歌人口が激増した関係もあり、本書の記事が非常に有用であることに気づかされた。このため予備的な形で伝本調査や本書の構成、注記に関する研究を行ってきた。文学・歴史のさまざまな分野の基礎的研究に跨ることが予想され、個

人研究費の規模を越えた段階に達したため、科学研究費の申請に至った次第である。

2. 研究の目的

南北朝初期成立の『勅撰作者部類』は、後世に改編され、かつ改竄が加えられた、不十分な内容の活字本しか提供されていないため、諸本調査と本文批判を経て校本を作成し、および周辺史料を活用し原撰本の内容を復原する。

『勅撰作者部類』は、中古・中世の歌人の伝記史料として非常に有用であるばかりか、勅撰集の作者表記そのものが入集歌人の社会的地位を反映する。そこで3000人に及ぶ作者表記から、実名のほか院号・官名・法名・女房名など、種々の人名表記の原則を帰納的に明らかにする。

『勅撰作者部類』および各集に附属して撰者が編纂した作者目録を活用して、勅撰集の成立過程・政治的意義について新しい視点から考察する。

3. 研究の方法

現在、『勅撰作者部類』を所蔵する全国の所蔵機関は50箇所を上り、国文学研究資料館の古典籍総合目録DBなどによれば、なお新出伝本があり総計100本は降らない。そこで研究期間内に、鹿児島大学附属図書館玉里文庫・京都大学附属図書館・宮内庁書陵部・国立国会図書館・国立公文書館・国立歴史民俗博物館・神宮文庫・静嘉堂文庫・東海大学附属中央図書館桃園文庫・東京大学史料編纂所・東京大学附属図書館・名古屋市立鶴舞中央図書館・八戸市立図書館・宮城県図書館・早稲田大学図書館などに出張し、詳しい書誌調査を実施したほか、国文学研究資料館でも写本のマイクロ紙焼きの閲覧と蒐集を行った。さらに、江戸前期、姫路藩主榊原忠次の手で、勅撰作者部類を後補する形で成立した続作者部類の伝本研究も併せて行った。

そして注記はもちろん、その書式もゆるがせにしない、善本の厳密な翻刻と、他本による校合を経て、作者部類・続作者部類の真面目を窺うことができる本文の提供を目的とした。

ところで、作者部類と題する写本にはさまざまな種類がある。勅撰集の作者目録(後世の人間が心覚えに作成する)がこれと同一にみなされてきて、結果として成立も構成原理も異なる作品が一括されている。これらを腑分けすることも目的である。

こうして判明した作者部類の原態は、帝・院以下、凡僧・庶女に至るまで、整然たる身分階層別の分類であり、すなわち当時の社会通念を反映したものであること。そこで、これをもとにした史料学的研究、あるいはこれまでの通説に疑問のある歌人の伝記研究を

行った。

4. 研究成果

「作者部類」と題する写本は、ほぼ以下の四種に大別されることが判明した。(1)元盛・光之の原撰本の作者部類(旧作者部類・十八代集作者部類)(2)忠次の続作者部類、(3)(2)に(1)を合体させ、分類・排列の原理を変更した改編作者部類、(4)二十一代集各集の作者目録を集成したもの(集別作者部類)以上が一括されている状態なので、これをきちんと弁別し、それぞれの成立過程について考えた。

ここでは、当面の目的とした、(1)の元盛・光之による勅撰作者部類の原撰本に限って述べたい。今回の調査によって、(1)も50本を超える写本を見出すことができた。残念ながら書写年代が室町時代に遡る写本は見当たらなかったが、祖本は一つであり、上中下の三巻に分ける形が古態であることを突き止めた。そして諸本のなかでは、宮内庁書陵部蔵御所本(外題後西天皇宸筆)および陽明文庫蔵本(外題近衛信尋筆)が、脱落もなく比較的善良であることが分かり、いずれも江戸初期頃の書写である。それから、国立公文書館内閣文庫蔵林家本と早稲田大学図書館本(中院通枝旧蔵本)がそれに継ぐ。そこでこの四本を基軸に据えて、校訂本文を作成、提供することにした。

この詳しい本文批判と推察を経て、現存する諸本の源流は、室町末期の近衛家または近衛家出身の聖護院門跡道澄が関係する一本であることを推定し、それに最も近い伝本の一つと考えられる宮内庁書陵部蔵御所本(後西天皇宸筆外題)を底本として翻刻、他の三本によって校合して、現時点で信頼の置ける本文を復原した。あわせて作者異議以下についても同様の作業を行った。

さらに続作者部類については、伝本のうちに唯一編者自らが修訂していて、かつ最善本である、国立歴史民俗博物館蔵高松宮家伝来禁裏本(外題は霊元天皇宸筆)に注目し、初めて全文を翻刻した。

以上、作者部類と続作者部類の本文研究成果は、複雑な組版を経て、2017年5月に『中世和歌史の研究 撰歌と歌人社会』に収録して、塙書房より刊行した。ここでは見やすい本文として提供するとともに、校訂上の疑問ある箇所処理については「校訂附記」を付けてその理由を明示した。かつ上記二つの作者部類に収められた勅撰歌人の索引をも併せて編纂し、大方の利用の便宜を図った。

ここからは文学作品や史料上の人名表記の原則を引き出すことができ、勅撰和歌集以下の歌集での作者の呼称についても示唆を与えられた。この点について「五位と六位の間」と題して講演し、あるいは作者異議以下を用いた論文を補訂の上、上記著書に収録した。ここで得た知識を活かして史料集の編纂

と刊行にも取り組んだ。とくに人名比定の原則についてはこれを活用して、東坊城秀長(1338-1411)の日記『迎陽記』の第二冊(索引と解題付き)を今春に刊行することができた。

そして鎌倉後期から南北朝期を中心として、数名の歌人の伝記について、上の成果に基づいて考察を行った。とりわけ歌人としても知られる兼好法師の伝記については力点を置いた。兼好の伝記は、後世になって捏造されており、偽作された史料に基づいて記述されていたため、勅撰作者部類を始めとする同時代史料を活用して、その実像を示した。これは「卜部兼好伝批判-「兼好法師」から「吉田兼好」へ」(国語国文学研究 49, 2014年)のほかの諸論として発表した。さらにまた、以上の伝記研究の成果を活かして、徒然草の注釈に取り組み、『新版 徒然草 現代語訳付き』(角川書店)を刊行している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

小川剛生, 兼好法師の伊勢参宮-祭主大臣氏との関係を考証し出自の推定に及ぶ, 日本文学研究ジャーナル 1, 査読有, 120-134, 2017

小川剛生, 三浦道寸書写の新続古今和歌集切 武蔵野文学, 査読無, 64, 23-28, 2016

小川剛生, 徒然草をどう読むか-「作者問題」と併せて考える, 日本女子大学国文学会研究ノート, 査読無, 44, 1-15, 2016

小川剛生, 勅撰作者部類の成立-「作者部類」と題する一群の写本について, 藝文研究, 査読有, 109-1, 341-360, 2015

小川剛生, 足利氏と大倉稻荷, 査読有, 朱, 57, 2014

小川剛生, 尺素往来の伝本と成立年代, 佐藤道生・高田信敬・中川博夫編『これからの国文学研究のために 池田利夫追悼論集』(笠間書院), 査読無, 353-382, 2014

小川剛生・高岸輝, 室町時代の文化, 『岩波講座日本歴史 8 中世 3』(岩波書店), 査読有, 257-314, 2014

小川剛生, 徒然草と金沢北条氏, 査読無, 荒木浩編『中世の随筆(中世文学と隣接諸学 10)』, 293-314, 2014

小川剛生, 五位と六位の間-十三代集と勅撰作者部類, 軍記と語り物, 査読有, 50, pp. 35-46, 2014

小川剛生, 卜部兼好伝批判-「兼好法師」から「吉田兼好」へ, 国語国文学研究, 査読無, 49, 113-130, 2014

[学会発表](計1件)

小川剛生, 室町期の武士と『源氏物語』, 能楽学会大会, 早稲田大学(東京都新宿区), 2016-05-14

〔図書〕(計3件)

小川剛生, 中世和歌史の研究 撰歌と歌人
社会, 塙書房, 2017, 736

小川剛生, 迎陽記 第二(史料纂集), 八木書
店, 2016, 300

小川剛生, 新版 徒然草 現代語訳付き(角
川ソフィア文庫), KADOKAWA, 2015, 475

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川 剛生 (OGAWA, Takeo)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号: 30295117